

## 英文学科教員の推薦図書

増井 志津代

『聖書』旧約 39 卷、新約 27 卷、合計 66 卷、どの書からでも日本語、英語、何語、何訳で読んでも OK。シェイクスピア、ミルトン、バンヤン、ピューリタンが親しんだ一番人気の英訳聖書は？ 答え：『ジュネーヴ訳聖書』(1560)。『欽定訳聖書』より 50 年前に出版された民衆の聖書です。なぜ、民衆は『ジュネーヴ訳』が好き？ 答えは授業で。

山口 和彦

コーマック・マッカーシー『越境』(Cormac McCarthy, *The Crossing*)

エラリー・クイーン『エジプト十字架の謎』(Ellery Queen, *The Egyptian Cross Mystery*)

前者は、現代アメリカ作家コーマック・マッカーシーの大著。狼の崇高さに憑かれた少年ビリー・パーハムが、捕らえられた牝狼をメキシコの山中に返還するための旅に出立し、のっぴきならない運命に巻き込まれていくロード・ノヴェル。マッカーシーの物語世界は、分かりやすい因果律に落とし込んで解釈することができない。常識に囚われた現代人を根底から揺すぶるエピソードや表現に満ちた本作は、真に生きるための批判的思考のかけがえのなさを実感できる。

後者は、本格推理小説の名著で、作者の国名シリーズのひとつ。T の字のエジプト十字架にはりつけられた死体が次々と発見される事件の犯人捜し。物語の終盤で作者が顔を出し、その時点までに「フェアに」提示されたデータ(物語)を用いて論理を厳正に働かせれば犯人は誰なのかは明らかであると読者を挑発する。いわゆる「読者への挑戦」を用いた謎解きゲームで軽快に読むこともできるが、ゲームと呼ぶにはあまりにも深い主題が隠されている。

下條 恵子

最近自宅で過ごす時間が長いせいか、家や建物にまつわる本ばかり読んでいます。今回はその中から門井慶喜の『屋根をかける人』(角川、2016 年)を紹介します。Kindle など電子ブックの形で販売されていますので、このような時期でも入手しやすいかもしれません。私も Kindle 版を読みました。

1904 年に来日し、日本で数々の西洋建築を手掛けた実在の建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの人生を元に描かれた小説です。キリスト教伝道者そして実業家でもあったヴォーリズが様々な才覚を発揮しながら歴史的な建築物を完成させていくプロセスが当時の社会的背景とともに描かれており、人と交わり知恵を出し合うこと、自分の専門性を磨いて社会に奉仕することの尊さを教えてくれます。

また、小説に登場する全国のヴォーリズ建築をネットなどで調べながら読み進めると読書の楽しさも倍増でした。東京にも現存のヴォーリズ建築がいくつもあるそうなので、自由に外出できる時期が来たら実際に見にいけど、という新たな楽しみもできました。皆さんもぜひ読んでみてください。

飯野 友幸

Paul Auster *Moon Palace* (Faber & Faber, 1989)

ある種の青春小説だが、とてつもない事ばかり次々に起きてどこか奇妙な小説。それでも、比較的平易な英語のリズムの良さに乗せられて頁をめくる手が止まらなくなる。

Brian Locke

This hour-long 2018 video from MIT is about public speaking. It is sound advice for someone who is addressing an American audience. While it is good to know how things are done in the West, as you watch, you might ask yourself if all of the ideas presented here would be appropriate for a Japanese audience. Which parts would be valuable for you? Which less so??  
<https://ocw.mit.edu/resources/res-tll-005-how-to-speak-january-iap-2018/how-to-speak/>

永富 友海

【暇で暇で困っているという人のみ限定のコーナーです】

思いがけずたっぷり自由時間を与えられたのでカラマーゾフを新訳で楽しんでます、注がやたら多いのが気になるけど『ユリシーズ』に挑戦中です、受験のときは意味不明なままタイトルだけ暗記したけど、これを機会に『阿 Q 正伝』読み始めました等々、このような方々はどうぞそのまま至福の時間を満喫しててください。

どうしても何かに集中できる心持になれないし...本を読むからには何か学ぶところがないと意味がないし...と、ぐだぐだしているうちに時間だけが過ぎていくのはさすがにもったいないので、大きなお世話ながら、ヴィクトリア朝「的な雰囲気」(←ここが重要!)を deep に煽りまくった作品を2, 3 挙げておきます。

◆大塚巳愛『ネガレアリテの悪魔—贗者たちの輪舞曲』(角川文庫)

■ 漫画チックな装いなのにヴィクトリア朝の蘊蓄がガチにぶち込まれてて、おみそれしましたというのが正直な感想

◆サラ・ウォータース『荊の城』上下(創元推理文庫)

■ 英文学専攻の著者が Dickens, Collins を下敷きにし、ロンドンの暗部をセンセーショナルに物語化した本格的歴史ミステリー。下敷き文学としての楽しさと、Waters のオリジナリティ(それがどこに求められるかは読んでみてのお楽しみ)としての楽しみがみっちり詰まった、おいしすぎる小説(もちろん英語で読むのが better!)

◆『ペニードレッドフル ～ ナイトメア 血塗られた秘密』シーズン 1&2(DVD)

■ 19 世紀(主にヴィクトリア朝)小説への、単なる言及(知っていればニヤツとする)に留まらず、怪しくチープな要素を切り取り、いかがわしくパッチワークし、退廃的に味付けし、ゾンビでコーティングするというやりたい放題の手法に、唾然としつつもずぶずぶはまります。さすがにシーズン 3 は途中からそのグロさに食傷気味となり、リタイア...

#### 松本 朗

お勧めしたい書物を1冊選ぶことが難しいと感じましたので、授業開始まで、毎日1,2時間でも英語の勉強をすることをお勧めします。AI(人工知能)による翻訳の質が急激に上がっているとのニュースが様々な紙面をにぎわしていますが、その質の上がったAIによる訳文を最終的にどこかに提出できるものにするには、やはり文法や構文をしっかり理解した者が手をいれる必要があると言われていています。AIによって代替されない英語力とは、文法や構文を押さえた高度な英語力なのです。薄い英文法の本や重要構文の本でかまいません。徹底的にマスターしましょう。

#### 西 能史

お勧めの本は、英米文学ではありませんが、吉川英治の著作、特に『三国志』です。長編の読破を目指してみてください。Amazon Kindle や、著作権が切れているので、スマートフォンのアプリを使って青空文庫等でも無料で読めます(アプリ→「青空文庫」で検索)。ただし、出版・販売されている書籍とは違い、誤字脱字が散見されることがありますから、もちろん、書籍の方がよいです。参考までに URL を記します。

[https://www.aozora.gr.jp/index\\_pages/person1562.html](https://www.aozora.gr.jp/index_pages/person1562.html)

#### 池田 真

海外に出かけられないので、紀行文学ばかりを読んでいます。その中でお勧めしたいのが、佐伯一麦『ノルゲ Norge』(講談社文芸文庫)です。作家である著者が染色家の妻のノルウェー留学に同行し、首都オスロでの一年間の生活を綴った私小説です。慣れない異国での生活の立ち上げ、徐々に行動範囲と交友関係が広がり様々な経験をする様子、帰国までの慌ただしさなど、海外生活の空気のようなものが共有できます。また、自然や気候の描写も秀逸で、実際にオスロに住んでいるかのような錯覚すら覚えます。ただし、面白おかしい海外生活記ではありません。むしろ、鬱として重くすらあります。それも含めて、独特の読後感が味わえる一冊です。